

1日目

ポストマンプロジェクト事業(文房具支援ボランティア) 高畑 広視

現地NGO法人による文房具(ノート、筆記用具ほか50kg)を贈呈した。この事業は、日本中から寄付によって集まった文房具を海外に行かれる方にNGO法人の提携先の学校などに送り届ける社会貢献活動である。

タイは、貧富の格差が激しく、地方は貧困層が多いとのことであった。文房具はその地方の小学校に贈られるとのことであった。5年前、上毛町議会は、同国のヴィチェンブリー市へ車椅子18台を贈った実績があり、今でも大切に使用しているということである。



2日目

日本プラストタイ工場への視察訪問 宮本 理一郎

本町に企業進出していることで、皆様もすでにご承知の『日本プラスト・タイ工場』を議員研修の一環として訪問した。企業主体としては、合成樹脂加工販売メーカーであり、現在世界戦略中である。

世界のトップクラスのメーカーとして、世界に向けて製品を供給しており、『樹脂とエアバック』が、2本柱のホンダ系自動車部品の大手である。売上高は、ホンダと日産向けが拮抗しているとのこと。主力製品は、ハンドル、エアバック、空調など車全体におよび、近年、自動車における樹脂の果たす役割は、ますます重要になっており、①安全性、②車体の軽量化、③高機能化、④デザインの自由度など樹脂の持つ特性を活かす領域は拡大しているとのこと。プラスチック加工技術で、自動車の進化を支え、国内4拠点、海外9拠点で、グローバル戦略を積極的に推進するとともに定期的な研修の継続で、従業員の成長をサポートすることで、会社のグローバル化に対処しているとのことである。このような成長企業が本町に進出していることに、私は誇らしさを感じざるを得なかった。本町出身の幹部社員と情報交換し、現状の説明を受けるとともに、実際に製造工程(ライン)の見学をさせていただき、大変有意義な議員研修であった。



タイ日産工場への視察訪問 峯 新一

タイ日産工場を視察訪問した。われわれの想像をはるかに超えた広大な敷地と工場・正門を通過して、約10分、我々の乗ったマイクロバスが、迷子になるというアクシデント発生、やむなく事務所へ連絡し、待つこと5分、副社長直々のお出迎えをいただいた。

副社長自らの説明と案内で業績内容と工場内の見学、さまざまな質問がでる中、あっという間の2時間30分だった。タイ工場は世界への輸出の拠点として重要な役割を果たしている。また、国内需要の伸びは著しく、ここ2年間の成長は目を見張るものがあった。設備などは日本の工場と比べるとまだまだではあるが、工場の活気、働く人々の活気を体感した素晴らしい研修であった。

副社長である高橋啓作氏は大変実直な方で上毛町出身である。日産の工場ではトップクラスのタイ工場の副社長が同郷の人ということもちょっと鼻が高い気がする。



議員研修の趣旨  
タイ王国

日本とタイは600年にわたる交流の歴史をもち、伝統的に友好関係を維持している。近年は両国の皇室・王室間の関係を基礎に、政治、経済、文化など幅広い面で親密な関係を築いており、人的交流は極めて活発である。特に経済面において両国は非常に親密な関係にあり、タイから見て日本は貿易額、投資額、援助額ともに第1位である。日本にとってはタイは東南アジア地域における重要な生産拠点かつ市場であり、バンコク日本人商工会議所の加盟企業は1,300社以上を数える。

福岡県においても2006年にタイ・バンコク都と友好提携協定を結んでおり、また、2010年にはタイ・バンコク都に日本で初めてになる自治体単独の海外事務所を設置し県内企業のビジネス展開の支援を中心に業務を行っている。タイは世界各国から自動車産業と電子産業の企業が数多く進出しており、上毛町にある日本プラスト・日立オートモティブシステムズ九州・九州永田といった企業の工場がある。

2013年タイのGDP(国内総生産)の平均伸び率は4.6%で高い数値となる見通しである。よって、タイ市場は日本を始めとした、外国資本の進出意欲が旺盛で好景気が期待されている。

以上のようなことから国際化、情報化など多様な社会経済情勢の中、グローバルな視点立ち、経済的だけではなく政治的文化的な交流を深めるためタイで活躍している現地法人企業の訪問及び学校・農産物関係の視察・意見交換を実施した。

7月29日(月)~8月2日(金) 3泊5日

